

第十一部 イスラエルの贖いと回復

イザヤ 40 章～66 章

□第十一部のアウトライン

- | | |
|--------------------------|----------------|
| A) プロローグ | 40 章 1～11 節 |
| B) イスラエルの苦難は終わる | 40 章 12 節～48 章 |
| C) イスラエルの罪は償われている | 49 章～57 章 |
| D) イスラエルは二倍のものを受けている | 58 章～66 章 |

イザヤ 40 章から 66 章までは、プロローグ (A) のあと、3つの区分 (B～D) が続く。第一番目の区分 (B) では、預言の中心はバビロン捕囚からの解放者キュロスであった。二番目の区分 (C) では、預言の中心はイスラエルを罪から解放するメシア「主のしもべ」である。そして、バビロンとの関係では、近い将来のバビロン捕囚ではなく、遠い将来の大患難期におけるバビロンからの最終的解放に目が向けられる。

□「C) イスラエルの罪は償われている」のアウトライン (イザヤ 49 章～57 章)

1. 主のしもべの使命 (49 章)
2. 主のしもべの苦難 (50 章)
3. 目覚めよ、目覚めよ (51 章～52 章 12 節)
4. 主のしもべの死と葬りと復活 (52 章 13 節～53 章)
5. 「ヤハウエの妻」(＝イスラエル民族) の回復 (54 章)
6. イスラエルと異邦人に向けて「救いを受けよ」(55 章～56 章 8 節)
7. 指導者層への宣告、信仰者たちへの神の憐れみ (56 章 9 節～57 章)

□「1. 主のしもべの使命」のアウトライン (イザヤ 49 章)

- a. しもべの使命 (1～13 節)
 - (1) しもべの落胆 (1～4 節)
 - (2) 神の答え (5～6 節)
 - (3) しもべは人々には拒否されるが、神によって高められる (7 節)
 - (4) しもべによるイスラエルの回復 (8～13 節)
- b. シオンへの慰め (14～26 節)
 - (1) シオンは見捨てられたわけではない (14～18 節)
 - (2) 荒れ果てた地が回復される (19～21 節)
 - (3) 諸国民は二つのグループに分けられる (22～26 節)

1. 主のしもべの使命

「主のしもべ」とは、メシアの呼称のひとつである。1 節「島々よ、私に聞け」という語り出しで始まる 49 章は、メシア本人のことばである。日本語の新改訳聖書では漢字の「私」という訳語が当てられているが、語っているのはメシアであって、預言者イザヤではない。このことを念頭に置いて読み進めていこう。

a. しもべの使命 (49 章 1～13 節)

(1) しもべの落胆 (1～4 節)

1～2 節 島々よ、私に聞け。遠い国々の民よ、耳を傾けよ。主は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいるときから私の名を呼ばれた。主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、私を研ぎ澄まされた矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。

- 生まれる前から私を召し＝メシアは特別な使命をもって生まれてくる
- 母の胎内にいるときから私の名を呼ばれた・・・イザヤ 7：14 では、メシアは処女から生まれると預言された。その成就是、マタイ 1：18～25、ルカ 1：26～38。
- 私の口を鋭い剣のようにし・・・毅然とした態度で、物事の本質を的確に指摘し、偽善者の罪を宣告する（その実例は、マタイ 23 章など）
- 御手の陰に私をかくまい・・・メシアは父なる神の守りの中にある。実際に何回も殺されそうになるが、十字架の時まで守られた。
- 私を研ぎ澄まされた矢とし・・・研ぎ澄まされた矢とは、矢のシャフトが磨かれていて、射手の頬に引っかかることなく、スムーズに放たれる矢。メシアは、神の命令が下るならいつでも、即座にその使命を遂行するしもべである。

3～4 節 そして、私に言われた。「あなたは、わたしのしもべ。イスラエルよ、わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

しかし、私は言った。「私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の報いは私の神とともにある。」

- わたしのしもべ。イスラエルよ・・・メシア。イザヤ 44：1 ではイスラエル民族が「わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだイスラエル」と言われた。イスラエル民族は第一のイスラエルであるが、主に不従

順で失敗した。第二のイスラエルであるメシアは、第一のイスラエルから生まれ、第一のイスラエルに代わり、第一のイスラエルの代表として、主に従順を貫き、成功する。

- わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す・・・「わたし」とは父なる神。直訳すると「あなたにあって、わたしは栄光を受ける」。しもべの働きを通して父なる神が栄光を受けるのである。実際、イエスは十字架にかかる前夜、次のように父に祈った。

ヨハネ 17：4 わたしが行うようにと、あなたが与えてくださったわざを成し遂げて、わたしは地上であなたの栄光を現しました。

- 私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした・・・「無駄な」＝労苦したことは何も残らない、「いたずらに」＝茫漠とした状態、「空しく」＝水蒸気や息が大気中に消え去る ⇒ メシアが、このような空虚感に打ちのめされる時があるという預言。それは実際に、イエスの逮捕直前、ゲッセマネの苦悶の祈り（マタイ 26：42、ルカ 22：43～44）で起きた。
- それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の報いは私の神とともにある・・・「それでも」、メシアは空虚感に打ちのめされながらも、同時に、【自分は神から遣わされた任務を果たした。神がともにおられる。神が義と認めてくださる。神がすべてのことを知っておられ、すべてのことを支配しておられる】という信仰から一步も離れることはなかった。

(2) 神の答え (5～6 節)

5～6 節 今、主は言われる。ヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、母の胎内で私をご自分のしもべとして形造った方が言われる。

私は主の御目に重んじられ、私の神は私の力となられた。主は言われる。

「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

- 波線部：父なる神はイスラエルの民族的救いを「小さなこと」と言われる。イスラエルの拒否は、異邦人の救いへと神の計画が進む転換点となる。しかし、イスラエルが見捨てられたわけではない。イスラエルの民族的救いは必ず成就する。(ロマ 11 章)。「ヤコブの諸部族を立た

せる」、直訳すると「ヤコブを再び主のもとに連れていく」、連れて行くということばには、立ち返らせる、という意味が含まれる。異邦人の救いを通して、イスラエルを主に立ち返らせ、救いに導くというのが神の計画である（ロマ 11：11）。したがって、メシアはイスラエルを救うという使命に失敗するわけではない。

- あなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする・・・父なる神はメシアを、国々の光とし、地の果てにまで神による救いをもたらす者とする、約束される。アブラハムに主が約束されたことの成就である。

創 12：3 地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

創 22：18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。

ガラ 3：14 それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。

ガラ 3：16 約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。

- ゲッセマネで苦悶の祈りをするイエスに、天使が何かを伝えてイエスを力づけた（ルカ 22：43）。おそらく、父なる神のこの答えである。

(3) しもべは人々には拒否されるが、神によって高められる（7 節）

7 節 イスラエルを贖う方、その聖なる方、主は、人に蔑まれている者、国民に忌み嫌われている者に、支配者たちの奴隷に、向かって こう言われる。

「王たちは見て立ち上がり、首長たちもひれ伏す。真実である主、あなたを選んだイスラエルの聖なる者のゆえに。」

- 人に蔑まれている者、国民に忌み嫌われている者、支配者たちの奴隷、あなた・・・メシアを指す。実際にイエスは、イスラエルの指導者層から、メシアではないと拒否され、悪霊に憑かれた魔術師だと蔑まれた。

(4) しもべによるイスラエルの回復（8～13 節）

8～12 節 主はこう言われる。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、わたしはあなたを助ける。わたしはあなたを見守り、あなたを民の契約と

し、国を復興して、荒れ果てたゆずりの地を受け継がせる。わたしは捕らわれ人には『出よ』と言ひ、闇の中にいる者には『姿を現せ』と言う。彼らは道すがら羊を飼い、裸の丘のいたところが彼らの牧場となる。彼らは飢えず、渴かず、炎熱も太陽も彼らを打たない。彼らをあわれむ者が彼らを導き、湧き出る水のほとりに連れて行くからだ。わたしは、わたしの山々をすべて道とし、わたしの大路を高くする。見よ。ある者は遠くから来る。見よ。ある者は北から西から、また、ある者はシニムの地から来る。」

- 恵みの時・・・イスラエルの民族的救いの時
- あなた・・・メシア
- あなたを民の契約とする・・・アブラハム契約とその枝となる三つの契約（土地の契約、ダビデ契約、新しい契約）をイスラエル民族が受けていて、メシアはその契約を成就させる働きをする。
- 捕らわれ人、闇の中にいる者・・・大患難期に捕虜となり、監獄に入れられていたイスラエルの人たち
- 彼らをあわれむ者・・・メシア
- シニムの地から来る・・・シニムとは現代ヘブル語では中国を指すが、イザヤの時代のヘブル語が同じ意味であったかはわからない。ペルシアからさらに東の方の地域を指すと考えられよう。

イザヤの賛美

13 節 天よ、喜びの声をあげよ。地よ、小躍りせよ。山々よ、歓喜の声をあげよ。主がご自分の民を慰め、その苦しむ者をあわれまれるからだ。

b. シオンへの慰め（49 章 14～26 節）

(1) シオンは見捨てられたわけではない（14～18 節）

14 節 しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた」と。

15～18 節 「女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。あなたの子どもたちは急いでやって来る。あなたを破壊し、廃墟とした者たちは、あなたのところから出て行く。目を上げて、あたりを見回せ。彼らはみな集まって、あなたのところに来る。わたしは生きている。——主のことば——。

あなたは必ず、彼らをみな飾り物として身に着け、花嫁のように彼らを帯に結ぶ。

(2) 荒れ果てた地が回復される (19～21 節)

19～21 節 あなたの廃墟と荒れ跡と滅びた地は、今に、住むには狭すぎるようになり、あなたを呑み込んだ者たちは遠くへ離れ去る。あなたが子を失った後に生まれた子らが、再びあなたの耳に言う。『この場所は私には狭すぎる。私が住めるように場所を広くしてください』と。

そのとき、あなたは心の中で言うだろう。『だれが私に、この者たちを産んでくれたのだろう。私は子に死なれた女、子を産めない女、捕囚のさすらい人であったのに。だれがこの者たちを育てたのだろう。私は、ただひとり残されていたのに。この者たちはどこから来たのだろう。』

(3) 諸国民は二つのグループに分けられる (22～26 節)

メシアは再臨した後、大患難期を生き残った諸国民を二つのグループに分ける (ヨエル 3 章、マタイ 25 : 31～46 「羊の諸国民、やぎの諸国民」)

大患難期の後、イスラエルの帰還を助ける諸国民 (羊)

22～23 節 神である主はこう言われる。

「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を諸国の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちを懷に抱いて来る。あなたの娘たちは肩に担がれて来る。王たちはあなたの世話をする者となり、王妃たちはあなたの乳母となる。彼らは顔を地に付けて、あなたを伏し拝み、あなたの足のちりをなめる。あなたは、私が主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を見ることがない。」

大患難期にイスラエルから収奪していたので、主から復讐される諸国民 (やぎ)

24～26 節 奪われた物を勇士から取り戻せるだろうか。捕らわれ人を横暴な者から救い出せるだろうか。まことに、主はこう言われる。

「捕らわれ人は勇士から取り戻され、奪われた物も横暴な者から奪い返される。あなたが争う者と、このわたしが争い、あなたの子らを、このわたしが救う。わたしは、あなたを虐げる者に彼ら自身の肉を食らわせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように、自分自身の血に酔う。すべての肉なる者が、わたしが主、あなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力強き者であることを知る。」

- 奪われた者、捕らわれ人・・・ゼカリヤ 12 : 1～3、14 : 1～2